

秋田市地域公共交通の最近の動向について

1 西部地域における取組（豊岩線・下浜線・浜田線）

- (1) マイタウン・バス西部線（豊浜ふれあい号）の運行状況
- ・平成17年10月1日から運行開始
 - ・各年度は、前年10月1日から翌年9月30日までの1年間

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	利用者数	対前年比	利用者数	対前年比	利用者数	対前年比	利用者数	対前年比
豊岩線	66,307		61,136	7.8	51,416	15.9	47,991	6.7
下浜線	80,481		82,206	2.1	80,614	2.0	75,137	6.8
浜田線	24,823		23,659	4.7	24,867	5.1	22,719	8.7
計	171,611		167,001	2.7	156,897	6.1	145,847	7.1

→
マイタウン・バス

(2) 第3回秋田市マイタウン・バス西部線運行協議会の概要

開催日時 平成20年5月17日（土） 午前10時～午前11時20分

場 所 新屋支所 2階大会議室

委員構成

自治会、福祉関係団体、教育関係団体、利用者、運行事業者、行政などからの委員により構成

議事要旨

- ・小中学校の登下校時を除けば、車両を小型化できるのではないかと
- 運行車両の小型化は、利用実態調査を実施して検討する。
- ・乗合タクシーを使用した場合の運賃はどうなるのか
- 北部で実施している乗合タクシーの運賃は、運行前のバス運賃とほぼ同額である。
- ・バスは、利用者がいなくても起点から終点まで運行している。北部線は、利用者がいない場合は走らないと聞いているが、運行形態を説明してほしい。
- 北部の運行形態等を説明
- ・西部線を代替交通に切り替える時期は、いつか。
- 西部線は、平成17年10月に既に代替交通に移行済みである。
概ね5年間は現行の運行形態を維持することとして、コミュニティバスを導入している。運行車両や運賃を変更するなどの運行形態が大きく変わる場合は、平成22年以降になる。

2 北部地域における取組（堀内線・小友線・下新城線・上新城線）

(1) 予約式乗合タクシーの運行状況

運行コース別利用者

・7月の大人の利用者数は、1,953人で、徐々に増加してきている。

	4月		5月		6月		7月		8月	
	総数	うち小人	総数	うち小人	総数	うち小人	総数	うち小人	総数	うち小人
金足コース	1,142	648	1,278	767	1,362	796	1,139	591	688	210
下新城コース	718	32	893	91	851	102	880	85	724	29
上新城コース	497	3	509	11	546	14	617	7	487	3
計	2,357	683	2,680	869	2,759	912	2,636	683	1,899	242
参考 大人の利用者数	1,674		1,811		1,847		1,953		1,657	

7月下旬から8月は小学校の夏期休業
一般企業等のお盆休業(8月)

(2) 予約式乗合タクシーに関する課題への対応について

改善した点

項目	内容	対応
(1) 予約が煩雑	電話での予約が面倒である	利用者が初回予約する際に、運行事業者が電話番号登録することにより、2回目以降住所、氏名の確認を省き、煩雑さを軽減している
(2) 運行表示関連	車内に運賃や使用可能な乗車券の表示がほしい 金足・下新城方面へのタクシー停留所が見つけにくい	電話による予約の際に、運賃や使用可能な乗車券を案内するようした 案内表示を増やして、タクシー停留所をわかりやすくした
(3) 運賃関連	小学生が利用する際に支払う80円の準備が大変	子供用回数券の導入を検討し、小銭を払う煩雑さの軽減を図っている

検討すべき点

項目	内容	対応
(1) 予約なし乗車	乗車定員に空きがあるときは予約なしでも乗れるようにしてほしい	今後、運行事業者と空きがある場合乗れるよう協議を行い、運行協議会に諮っていく
(2) 運行関連	定時運行してほしい	時間より早く出発することがなく、定時運行するよう運行事業者者に周知徹底していく

(3) 増便関連	金足コースおよび下新城コースの組合病院発の下りの便を増やしてほしい	冬期間の運行も含めて、平成20年度一年間の運行状況を見た上で見直すこととしている
	黒川発の7時半頃の便を増やしてほしい	
	日曜日の便を増やしてほしい	

路線バスと比べ好評な意見

- ・ タクシーなので自宅付近まで迎えに来てくれること
- ・ 路線バスより椅子など車内設備が快適であること
- ・ 組合病院まで乗換なしで行けるようになったこと
- ・ 電話予約はまとめて行うことができ、小中学生の利用の際には、休むときだけ連絡すれば良いこと

参考 路線バスに比べて改善されている点

- ・ 運行便数が増加していること（57便 69便）
- ・ 時刻がわかりやすくなったこと
- ・ 今までバス路線が運行していないところにもタクシー停留所を設けたこと（岩瀬北、湯の里）

(4) 開催概要

1) 第1回秋田市マイタウン・バス北部線運行協議会の概要

開催日時 平成20年6月9日（月）午後6時30分～午後8時

場 所 北部公民館

委員の構成

自治会、福祉関係団体、教育関係団体、商工団体、利用者、運行事業者、行政などからの委員により構成

主な議題

- ・ 会長の選出（永田賢之助上新城地区振興会会長）
- ・ 4・5月の利用実態について
- ・ 愛称募集について

議事要旨

- ・ 予約締切が出発の1時間前となっているが、短縮できないか。
 - 締切時間は、各コースとも1往復に1時間程度かかることからこの単位にしているが、冬季の運行状況を確認の上、検討していきたい。
- ・ 予約がなくても弾力的に乗せることはできないか。
 - 座席に余裕がある場合は、乗車できる可能性があるが、予約センターで一元管理しているので、とにかく連絡してほしい。
- ・ 小学生の利用に対して毎日の運賃の準備が大変であると聞いている。回数券等を検討してほしい。
 - 回数券等については、回数券の種類や販売方法等も含めて、学校や関係機

関等と協議していく。

- ・ 組合病院発の下り便を増やしてほしい（午後3～午後4時台）。また、下新城コースの上りの始発が午前6時40分は早すぎる。午前7時台に変更できないか。
 - 運行時刻の変更は、運行車両の配車や路線バスとの接続調整が必要となるため、秋田中央交通㈱のダイヤ改正（4月）に合わせて検討していく。
- ・ 愛称募集について、小中学校の夏休み前が良いのではないか。9月でも良いが、スケジュール的に可能であれば、早いほうがいい。
 - 早いうちに募集するよう準備を進める。

2) 第2回秋田市マイタウン・バス北部線運行協議会の概要

開催日時 平成20年9月9日（火）午後2時～午後3時30分

場 所 北部公民館

委員の構成

自治会、福祉関係団体、教育関係団体、商工団体、利用者、運行事業者、行政などからの委員により構成

主な議題

- ・ 愛称選考について
- ・ 運行実績について
- ・ 利用促進について

議事要旨

- ・ 愛称について「北部ふれあい号」を選考（別紙参照）
- ・ 予約なしでも乗せるべきである。
 - 弾力的に対応している。
- ・ 時刻表の全戸配布は不要である。
- ・ 当地区のみの時刻表を作成し配布している。
- ・ 老人クラブ向けのPR資料はないものか。
- ・ 電話が面倒という意見はある。
- ・ 一度利用した人は、登録されている。

3 南部地域における取組（雄和線・ユーグル・岩見三内線）

(1) 公共交通研究会について

本市におけるバス交通は利用者の減少に歯止めがかからず、特に郊外部での減少が顕著であり、現行のバス路線の維持が困難であるため、その代替案も含めた対応について地域の関係者等で検討するため設置した。

(2) 委員の構成

自治会、福祉関係団体、教育関係団体、商工団体、利用者、地域審議会、運輸関係団体、行政などからの委員に加え、専門的な立場のアドバイザーにより構成

(3) 開催概要

1-1) 第1回雄和地域公共交通研究会（雄和線・ユーグル）

開催日時 平成20年5月29日（木）午後2時～午後4時

場 所 雄和地域活動センター

主な議題

- ・会長の選出（佐藤剛雄和地域審議会副会長）
 - ・当局側資料による秋田市のバス交通の現状および雄和線およびユーグル（雄和循環バス）の現状等の説明と質疑応答
- 議事要旨
- ・ユーグルを距離制運賃にした場合どのような収支状況になるのか。
 - 定額制のため、乗降区間のデータがないことから算出できないが、議論の参考となるよう何らかの推計を試みしてみる。
 - ・具体的な代替案がないと議論できない。
 - 今回は、共通認識を得ることが目的であることより、次回に代替案を提示したい。
 - ・北部の乗合タクシーの利用状況はどうなっているか。
 - 運行形態等について現状を説明。
 - ・ユーグルの存続をベースに考えてほしい。
 - ユーグルを存続させるケースも代替案に加える。

1-2) 第2回雄和地域公共交通研究会（雄和線・ユーグル）

開催日時 平成20年8月6日（水）午後2時～午後3時30分

場 所 雄和公民館

主な議題

- ・本市の財政状況
- ・生活バス路線維持費補助金等の推移
- ・雄和線、雄和循環バスに関するシミュレーション
- ・他都市の事例紹介

議事要旨

- ・原油高騰、高齢者の増加などによりバス利用者が増加するという考え方に立

って予測すべきではないか。

- 原油高騰などによりバス利用が増えるのではないかという期待は持っている。予測にあたっては、以前行ったバス利用実態調査からの利用者減少率を用いている。
- ・市としていくらなら出せると考えているのか。
 - 市としてこの程度の負担なら良いというラインはない。
- ・一部でも残せる可能性はないのか。
 - 結節点で区切って、路線バスと代替交通をはっきり区別したほうがよいと考える。
- ・区切りをつけて廃止し、別の形の公共交通を検討すべきである。
- ・通院、通学等の交通弱者をどうするかが今後の課題である。
- ・スクールバスの活用を検討すべきである。

2-1) 第1回河辺地域公共交通研究会（岩見三内線）

開催日時 平成20年6月5日（木）午後2時～午後3時30分

場 所 河辺地域活動センター

主な議題

- ・会長の選出（金慶一河辺地域審議会副会長）
- ・当局側資料による秋田市のバス交通の現状および岩見三内線の現状等の説明と質疑応答

議事要旨

- ・野崎から先の岩見ダム線、殿淵線などの廃止、見直しでなく、岩見三内線の見直しが必要ということか。
 - そのとおりである。
- ・現状はよく理解できる。バス事業者は岩見三内線の路線廃止の時期について、いつを目処に考えているのか
 - (バス事業者)一方的に廃止を申し入れることはない。しかし、県は平成22年度から補助金を削減する意向であるため、22年3月までには南部・東部地域の郊外部8路線についての方向性を見いだしたい。
- ・足の確保は生活に不可欠のもの。補助金により、路線を維持してほしい。
 - (会長)要望も含め、路線維持や代替交通のあり方については、次回以降に議論していきたい。

2-2) 第2回河辺地域公共交通研究会（岩見三内線）

開催日時 平成20年8月8日（金）午後2時～午後3時35分

場 所 河辺公民館

主な議題

- ・本市の財政状況
 - ・生活バス路線維持費補助金等の推移
 - ・岩見三内線の分析
 - ・他都市の事例紹介
- 議事要旨

- ・岩見三内線の営業係数が高いというのは、乗車人員が少ないということか。
- そのとおりである。
- ・通勤、通学は和田駅が起点となる。そうした便も検討してほしい。
- ・長期的な代替交通の構築をお願いしたい。

両研究会とも、次回開催時（10月予定）には代替案を提示することを確認
両研究会とも、今年度末までに方向性を見いだすことを確認

HPアドレス

西部地域 <http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/05kotu/seibu/default.htm>

北部地域 http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/05kotu/mytown_hokubu.htm

南部地域 http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/05kotu/mytown_nannbu.htm

4 その他の動向

(1) アクションプログラムの実施について

第4回協議会で取りまとめたアクションプログラムのうち、市民より応募のあった取り組みが、9月6日・7日に開催された「仲小路 JAZZ フェスティバル」においてパーク&ライドが実施された。

<http://www.nakakojijazz.com/>

<http://www.nakakojijazz.com/parkride.htm>

公 募	秋田タウン マネジメント	・公共交通とイベント開催の連携へ 向けた調査、研修会等の実施	・パーク&ライド実現に向けた調査、研修会等の実施 ・クーポン券つき観光マップ等の作成 ・中心市街地内での定額制、無料バスの運行の検討 ・ナンバー制実現へ向けた取り組みの推進
--------	-----------------	-----------------------------------	---

(2) エコ通勤ポータルサイトの開設について

国土交通省において、エコ通勤に関する実施方法や事例集等を掲載したサイトが9月25日に開設された。

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/ecommuters/>

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000005.html